

輸血情報

【献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出された症例 -2004年-】

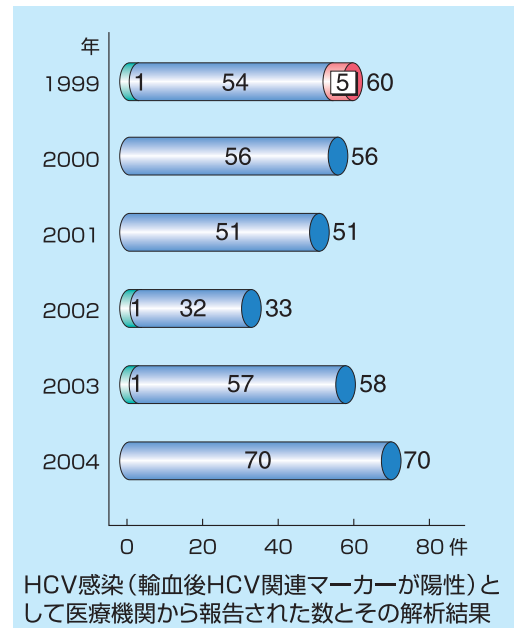
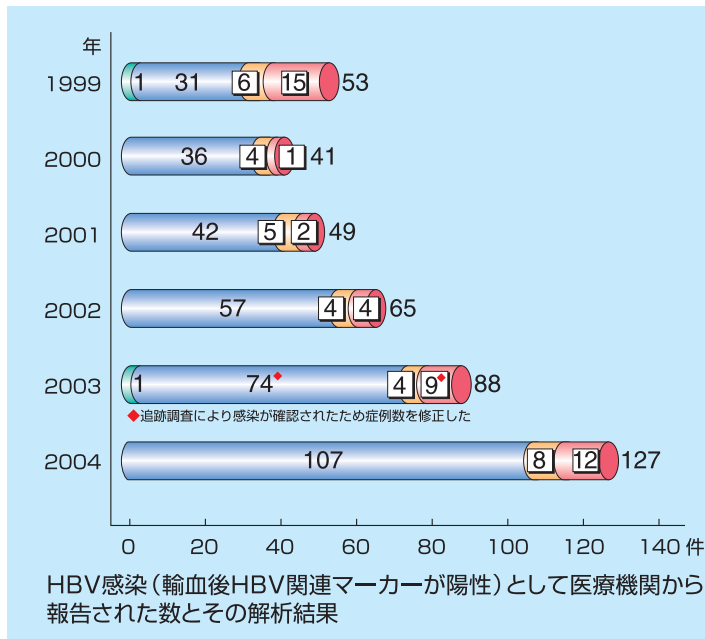
輸血によるウイルス等の感染が疑われ、2004年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例(自発報告)及び献血後情報に基づく遡及調査を行った症例の中で、献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出されたものは、HBV20例*、HEV2例でした。また、その他のウイルス・細菌については、輸血による感染が特定できた症例はありませんでした。

* 献血者は15名

輸血による感染の疑いとして赤十字血液センターに報告された症例及び献血後情報への対応症例の件数とその解析結果【HBV・HCV】 -1999~2004年*-

*1994~1998年までの件数については輸血情報No.84を参照してください

■ 解析できなかった症例 (自発報告症例)
 ■ 献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出されなかった症例 (自発報告症例)
 ■ 献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出された症例 (自発報告症例)
 ■ 献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出された症例 (献血後情報に基づく報告症例)



症例概要 (献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出された症例)

【HBV】(2004年)

● 自発報告:輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤* (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 [] :輸血までの期間(週)	輸血後の検査結果** [] :輸血からの期間(週)	ALT		経過			
							最高値 (IU)	最高値までの期間(週)	HBV DNA	HBs 抗原	HBs 抗体	HBc 抗体
1	骨盤骨折	RC-M・A・P (2003.7)	70代	男	HBs抗原 - [4 days]	HBs抗原 + [20.9]	1479	20.9	+	N.T.	N.T.	N.T.
2	十二指腸癌	Ir-RC-M・A・P (2003.7)	70代	女	HBs抗原 - [1 day]	HBs抗原 + [27.3]	668	29.9	+	+	-	+
3	骨髄異形成症候群	PC (2003.9)	80代	女	HBs抗原 - [35.3]	HBs抗原 + [25.0]	772	26.0	+	N.T.	N.T.	N.T.
4	常位胎盤早期剥離	Ir-RC-M・A・P (2003.10)	30代	女	HBs抗原 - [19.9]	HBs抗原 + [16.0]	1005	16.0	+	+	-	+
5	早期胃癌	RC-M・A・P (2003.10)	50代	男	HBs抗原 - [10.7]	HBs抗原 + HBV DNA + [22.4]	521	22.4	+	+	-	+
6	大腸癌	RC-M・A・P (2004.1)	50代	男	HBs抗原 - [55.4]	HBs抗原 + [20.4]	1216	20.6	+	+	-	+
7	急性骨髄性白血病	Ir-RC-M・A・P (2003.12)	20代	男	HBs抗原 - [2.6]	HBs抗原 + [36.6]	1912	37.1	+	N.T.	N.T.	N.T.
8	急性骨髄性白血病	PC (2004.1)	50代	男	HBs抗原 - [4.2]	HBs抗原 + [36.1]	1165	37.1	+	+	-	+

*保管検体等にウイルス核酸が検出された献血血液の種類 **医療機関での検査結果(陽性確認日)

N.T.: Not Tested

● 献血後情報:献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤* (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 [] :輸血までの期間(週)	輸血後の検査結果** [] :輸血からの期間(週)	ALT		経過			
							最高値 (IU)	最高値までの期間(週)	HBV DNA	HBs 抗原	HBs 抗体	HBc 抗体
9*	狭心症	Ir- RC-M・A・P (1999.10)	70代	女	HBs抗原 - [1.3]	HBs抗原 - HBs抗体 + [214.0]	32	1.0	-	-	+	+
10	慢性腎不全、溶血性尿毒症症候群	FFP (2003.4)	10代	女	HBs抗原 - [42.7]	HBs抗原 + HBV DNA + [50.3]	22	4.3	+	+	-	-
11	胃癌	RC-M・A・P (2003.12)	70代	男	HBs抗原 - [5 days]	HBs抗原 + [25.4]	148	25.4	+	+	-	+
12	急性骨髄性白血病	Ir- PC (2003.11)	60代	男	HBV DNA - [1.6]	HBV DNA + [7.6]	66	23.9	+	N.T.	N.T.	N.T.
13*	関節リウマチ	RC-M・A・P (1997.6)	60代	女	HBs抗原 - [2.9]	HBs抗原 - HBs抗体 + [72.4]	1421	18.0	N.T.	N.T.	N.T.	N.T.
14	骨髄異形成症候群	RC-M・A・P (2002.5)	60代	男	HBs抗原 - [13.3]	HBs抗原 + [56.0]	135	61.0	+	N.T.	N.T.	N.T.
15	骨盤骨折、尿道外傷、直腸損傷	FFP (2004.4)	60代	男	HBs抗原 - [3 days]	HBs抗原 + [18.6]	2281	22.7	+	+	-	+

*患者検体と保管検体等のウイルス同源性が確認できなかった症例

● 献血後情報(自発報告症例(No.4)の追跡調査):自発報告症例(No.4)の同時製造製剤を供給した医療機関から報告された症例

16	脳腫瘍	FFP (2003.10)	80代	女	HBs抗原 - [1.0]	HBs抗原 + [13.3]	61	16.9	+	+	-	+
----	-----	---------------	-----	---	---------------	----------------	----	------	---	---	---	---

● 献血後情報(自発報告症例(No.8)の追跡調査):自発報告症例(No.8)の同一献血者(いわゆるHBV低濃度キャリア)由来の製剤を供給した医療機関から報告された症例(医療機関へ供給した製剤の保管検体の個別NAT及び受血者情報)

症例 No.	採血年月	輸血用血液製剤*	献血者個別 NAT	受血者の輸血後の検査結果				ウイルス同源性
				HBV DNA	HBs 抗原	HBs 抗体	HBc 抗体	
17*	2004年3月	Ir- PC	+	-	-	+	+	受血者HBV DNA陰性のため確認できず
8	2004年1月	PC	+	+	+	-	+	ウイルス同源性あり
18	2003年12月	Ir- PC	-	+	-	-	-	ウイルス同源性あり
19*	2003年10月	PC	+	-	-	+	+	受血者HBV DNA陰性のため確認できず
20	2003年9月	PC	-	+	-	-	+	ウイルス同源性あり
◆	2002年4月	PC	-	+	+	-	+	ウイルス同源性あり

*患者検体と保管検体等のウイルス同源性が確認できなかった症例 ◆ 2003年の自発報告症例であり、当該製剤の保管検体にはウイルスが検出されなかった

【HEV】(2004年)

● 自発報告:輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤* (採血年月)	年齢	性別	輸血前の検査結果 [] :輸血までの期間(週)	輸血後の検査結果** [] :輸血からの期間(週)	ALT		経過
							最高値 (IU)	最高値までの期間(週)	HEV RNA
1	非ホジキンリンパ腫	RC-M・A・P (1999.10)	20代	男	N.T.	HEV RNA + [24.4]	832	16.7	+

● 献血後情報:献血血液の陽転化情報に基づく遡及調査により医療機関から報告された症例

2	非ホジキンリンパ腫	Ir- PC (2004.9)	60代	男	HEV RNA - [4.9]	N.T.	673	8.4	+
---	-----------	-----------------	-----	---	-----------------	------	-----	-----	---

*保管検体等にウイルス核酸が検出された献血血液の種類
**医療機関での検査結果(陽性確認日)
N.T.: Not Tested

核酸増幅検査(NAT)の実施状況【1999年7月~2005年7月】

献血血液(HBs抗原検査陰性、HBc抗体検査陰性、HCV抗体検査陰性、HIV-1及びHIV-2抗体検査陰性、ALT正常のもの)に対するNAT陽性数は次の通りです。

検体プールサイズ	検体数	NAT陽性数(頻度)		
		HBV	HCV	HIV
500(1999年7月~2000年1月)	2,140,207	19(約1/11万)	8(約1/27万)	0(-)
50(2000年2月~2004年8月)	24,702,784	473(約1/ 5万)	72(約1/34万)	8(約1/309万)
20(2004年8月~2005年7月)	4,925,075	95(約1/ 5万)	9(約1/55万)	4(約1/123万)
計(1999年7月~2005年7月)	31,768,066	587(約1/ 5万)	89(約1/36万)	12(約1/265万)

輸血用血液製剤または血漿分画製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者さんの検体(使用前後)等の提供をお願いします。

なお、使用された製剤及び患者さんの検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」を参照し保存してください。

《発行元》

日本赤十字社 血液事業本部 医薬情報課

〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目4番1号

秀和芝パークビルB館14階

ホームページ <http://www.jrc.or.jp/mr/top.html>

*お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター 医薬情報担当者へお願いいたします。